

ベトナム株式市場、格上げが濃厚に



《グローバルファンドが圧倒的な支持を表明》

インターネット情報サイト「MARKET INSIDER」の報道やACB証券の情報によると、9月26日に開催された世界的な大手機関投資家の会合において、ベトナム株式市場のフロンティア市場から新興市場セカンダリーへの格上げの賛否が話し合われ、26の主要機関投資家のうち22の機関投資家が、ベトナム株式市場のフロンティア市場から新興市場セカンダリーへの移行を支持した模様。賛成した機関投資家は、ブラックロック、バンガード、ステート・ストリートといった世界最大級の投資家が含まれている模様で、いずれも流動性の向上（出来高の増加）、規制緩和の実効性が高まっていることを理由に挙げた。市場格上げの最終関門である機関投資家の評価が良かったことから、ベトナム株式市場の格上げは大きく前進したと考えられる。

なお、反対票は以下の通りだった。フィデリティとPIMCOは条件付きでの賛成票にとどめた。両社ともKRX取引システムの運用状況を2026年第2四半期まで注視する必要性を強調した。また、アジアを拠点とするファンド2社が、米国とベトナム間の貿易摩擦について、なお不透明な要素が残る点を指摘し、格上げに反対した。

《構造改善が楽観的な見通しを後押し》

2025年5月のKRX取引システムの稼働後、ベトナム株式市場の出来高は順調に増加し、流動性の向上が確認できる。取引後入金モデルがうまく実装され、外国人投資家にとっての大きな参入障壁が取り除かれたことも確認できた。新たな法令により、外国人所有制限と通貨リスクに関する懸念も軽減されている。FTSEラッセルも、ベトナムの取引インフラのアップグレードと市場の透明性の改善を評価した。

《初期の受動的な流入額は50~70億ドル》

市場の格上げが実現すれば、ベトナムへのパッシブファンドからの資金流入は50~70億米ドルに達し、それに続いてアクティブファンドからの資産配分が見込まれると予測されている。ベトナム株式市場は、ポートフォリオマネジメントにおいて、アジアで最も注目される市場となるだろう。また、長期的には、ベトナム政府が目指すMSCIによる格上げの可能性も高まることが期待できる。

《決定日は10月8日》

FTSEラッセルによる公式発表は、2025年10月7日の米国市場の取引終了後に予定されている。正式に承認されれば、ベトナムは2026年3月までにFTSEセカンダリー・エマージング・インデックスに加わることになり、東南アジアで最も急速に成長する経済が世界的な機関投資家の運用対象となることが期待できる。

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会
主な事業 金融商品取引業

一般社団法人日本投資顧問業協会

有効期限作成日より180日

News20250930

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。